

終わりの日々に神にとって時代の価値を持ち、時代を転換する

聖書：啓 12:1-14. ネヘミヤ 1:1-11. 2:9-20. 4:4-5, 9.

5:10, 14-19. 8:1-10. 13:14, 29-31

I. 神は、この時代を終結させ、王国の時代をもたらすことを願っています。神はこの事を完成するために、彼の時代的手段を持たなければなりません：

- A. わたしたちはみな、神にとって時代の価値を持つように主を仰ぎ見て、祈るべきです。わたしたちは、自分の行なっている事を考慮して、この時代を終結させ、次の時代、王国の時代をもたらす必要があります。これは特別な時です。ですから、特別な信者たちが特別な働きを行なう必要があります。
- B. 「行きなさい」と言うことができるだけで、「来なさい (come)」と言うことができない人たちは、何の役にも立ちません。すなわち、彼らは神にとって何の時代の価値も持っていないでしょう——参照、ヘブル 10:22：
1. ヘブル人への手紙の著者は、信者たちに出て行くように告げたのではなく、進み出る (come forward) ように告げました。この事が意味するのは、著者が特定の場所において、読者に自分がいる所に進み出てほしかったということです。
 2. わたしたちは三つのものに、すなわち、至聖所に、恵みの御座に、神ご自身に進み出る必要があります。退いてはなりません。進み出なさい——ヘブル 4:16. 10:22. 7:25. 11:6。
 3. 神は恵みの御座におり、恵みの御座は至聖所の中にあります。ヘブル人への手紙が書かれた時代に、著者はその至聖所の中にいて、ヘブル人の信者たちに進み出るよう召していました。
- C. 男の子が天に携え上げられること、サタンが地に投げ落とされること、王国が来たと天で宣言されることが表徴するのは、神が男の子を得ることが、神の最も大いなる時代の行動であるということです。なぜなら、それは召会の時代を終わらせ、王国の時代をもたらすからです——啓 12:5, 9-10. 11:15。
- D. 男の子が神の御座に携え上げられることは、三年半 (四十二か月) の大患難の時である千二百六十日の前に起こります——啓 12:1-14. 13:5. 11:2。
- E. わたしたちは最も特権的な時代に生きています。わたしたちはその時代において神のために最も多くのことを行なうことができます。神は光として、わたしたちに道を示しますが、内住するキリストはわたしたちの強さと力として、わたしたちにその道を歩ませることが出来ます。今、用いられるためには、大きな代価を払わなければなりません——啓 3:18。

II. 召会は神の定められた御旨に到達していないので、神は一群れの勝利者を選びます。勝利者は神の定められた御旨に到達し、神の要求を満たします。これが男の子の原則です——啓 12:1-2, 5, 10-11. 2:7, 11, 17, 26-28. 3:5, 12, 20-21：

- A. 宇宙的な輝く女は、神の民の総合計を表しています。そして究極的に、創世記第 3 章 15 節の女の子孫は拡大されて、男の子によって表徴される、勝利を得た信者たち、すなわち、神の民のさらに力強い部分を含みます——啓 12:1-2, 5, 10-11。

- B. 復活したキリストは命を与える霊として、かたちを変えた女の末、女の子孫です。彼はわたしたちの中へと分与され、わたしたちの中で蛇の頭を打ち砕き、わたしたちを団体の女の子孫、勝利を得る男の子とならせ、太古の蛇に対する神の裁きを遂行し、わたしたちを神の時代の手段とならせて、時代を転換し、神の王国の実現をもたらします——啓 12:5。
- C. 詩篇第 2 篇 8 節から 9 節、啓示録第 2 章 26 節から 27 節、啓示録第 12 章 5 節が示しているのは、神の油塗られた方としての主イエス、諸召会における勝利者たち、男の子が鉄の杖をもって諸国民を支配するということであって、これは主イエスと勝利者たちと男の子が一であることを証明することです。主は導く勝利者として（啓 3:21）、男の子のかしら、中心、実際、命、性質であり、男の子は従う勝利者として、主のからだです。
- D. 十字架上で主の死を通して、古い蛇であるサタンは裁かれ、追い出されました（ヨハネ 12:31, 16:11）。その裁きと判決は、男の子（団体の女の子孫）としての勝利者たちによって究極的に遂行され、執行されます。勝利を得た信者たちによって遂行されるサタンとの戦いは、実はサタンに対する主の裁きを執行することであり、最終的にサタンが天から投げ落とされることです（啓 12:7-9）。
- E. 男の子は勝利者たちから成っており、召会を代表して立ち、召会全体が取るべき地位を取り、召会に代わって働きを行ないます——啓 2:7 後半, 11 後半, 17 後半, 26-28, 3:5, 12, 21. 12:5, 11 :
1. 神のすべての民は、神の永遠の定められた御旨に分を持つべきですが、すべての人が負うべき責任を負っているわけではありません。ですから、神は彼らの間からあるグループを、すなわち、女によって生み出される男の子を選び出します。
 2. 聖書で、神の民の間のさらに力強い者たちは、神のために戦って神の王国を地にもたらず集合的な単位と考えられています——啓 12:5, 10-11。
 3. 神は男の子を用いて神のエコノミーを成就し、神の定められた御旨を完成します—— I テモテ 1:4. II テモテ 1:9. エペソ 1:9, 11. 3:11。
 4. 神が必要としているのは、男の子が神の敵を打ち破って神の王国をもたらすことです。それは神の永遠の定められた御旨が完成されるためです。主の回復は、今日の神のエコノミーの実行であり、神のエコノミーは、男の子によってのみ遂行されることが出来ます——啓 12:10。
- F. 男の子が携え上げられることは、サタンに天でもはや立場を持たせなくする戦略です。わたしたちは、携え上げられて、神の敵に対して神の裁きを執行することによって、神の必要を満たさなければなりません——啓 12:5, 7-10。
- G. 男の子を構成する者たちは、小羊の血のゆえに、また彼らの証しの言のゆえに、悪魔（訴える者、中傷者）、すなわち神の敵であるサタンに打ち勝ちます。彼らは死に至るまでも、自分の魂の命を愛しません——啓 12:10-11。
- H. 男の子の全存在は、キリストの要素で浸透され飽和されています。なぜなら、男の子は日ごとに、彼らの内なる人の中へと増強されているからです。そうして、キリストは彼ご自身を彼らの心の中へと建造し込み、彼らはキリストの計り知れない豊富で養われつつあり、神のすべての武具としてのキリストを着ます——エペソ

3:16-18, 8. 6:10-11。

Ⅲ. イスラエルが七十年間、捕囚にされていた時、神は真の勝利者であったネヘミヤのゆえに、なおも時代の行動を持っていました。ネヘミヤは、神にとって時代の価値を持つ者の模範です——ネヘミヤ 1:1-11. 2:9-20. 4:4-5, 9. 5:10, 14-19. 8:1-10. 13:14, 29-31 :

A. ネヘミヤ記の極めて重要な点は、エルサレムの都とその城壁の再建が神の選民の間で神の証しを継続的に回復して神のエコノミーを完成することであったということであり、またそれが都の内側にある神の家にとって防衛と保護でもあったということです :

1. この事は次のことを表徴します。すなわち、地上での神の住まいまたホームとしての神の家が必要とするのは、神の王国が領域として確立されて、地上での神の行政のための権益を保護し、神のエコノミーを遂行するということです——参照、ローマ 14:17。

2. 神の家を再建することは、神が墮落した召会を回復することを予表します。エルサレムの都の城壁を再建することは、神が彼の王国を回復することを予表します。神の家を建造することと神の王国を建造することは同時に進行します——マタイ 16:18-19。

B. わたしたちは、キリストをわたしたちの命として認識し享受するとき、召会を神の家として持ちます。もしわたしたちがさらに前進してキリストの頭首権を認識するならば、家は拡大されて、都、すなわち神の王国となります——エペソ 1:10, 22-23. 4:15. 啓 22:1。

C. ネヘミヤ記が示しているのは、わたしたちが今日の主の回復の中で正常な進取性を持つ必要があるということです :

1. モアブ人とアンモン人のリーダーたちは、ネヘミヤがイスラエルの子たちの益を求めていることに、大いに怒りました。彼らはロトの不純な増し加わりの子孫であって、イスラエルの子たちを憎み、さげすみました——ネヘミヤ 2:10, 19. 参照、エゼキエル 25:3, 8。

2. これらの反対者たちのあざけり、さげすみ、そしりに対して、ネヘミヤはとても純粹で進取的であって、臆病ではありませんでした——ネヘミヤ 1:4. 2:3-8, 17-20. 4:3-5, 8-9, 14, 17-23. 5:14. 13:23-31. 参照、使徒 4:29-31. I テサロニケ 2:2. II テモテ 1:7-8。

3. 進取的な人は神から助けを受けます。ネヘミヤのように、使徒パウロは神と結合し、この結合の中で神の助けを認識しました——使徒 26:21-22。

4. ネヘミヤが進取的であったことは、彼の人の行為における美德でした。この事が示しているのは、わたしたちの天然の能力、才能、美德がキリストの十字架を経過して、復活の中へと、三一の神の究極的完成であるその霊の中へともたらされて、神のエコノミーを完成することにおいて神にとって有益なものにならないということです。

D. ネヘミヤは彼の天然の人の中でではなく、復活の中で生きました。彼は進取的でしたが、彼が進取的であったことは、他の特徴も伴っていました :

1. ネヘミヤは神との関係において、神を愛し、地上での神の権益を愛した者でもあ

- りました。この神の権益は、聖なる地（キリストを表徴する）、聖なる宮（召会を表徴する）、聖なる都（神の王国を表徴する）を含んでいます——列王上 8:48。参照、II テモテ 3:1-5。
2. ネヘミヤは神を愛した人として、交わりの中で神に祈り、神と接触しました。城壁を再建するために、ネヘミヤは神の言葉に立ち、神の言葉にしたがって祈りました——ネヘミヤ 1:1-11. 2:4. 4:4-5, 9。
 3. ネヘミヤは神に信頼し、神と一にさえなりました。その結果、彼は神の代理となりました——ネヘミヤ 5:19. 参照、II コリント 5:20。
 4. ネヘミヤは民との関係において利己的ではなく、自分のことを何も求めず、何の私利私欲もありませんでした。彼は常に自ら進んで民のために、また国のために、自分が持っていたものを犠牲にしました——ネヘミヤ 5:10, 14-19。
- E. 総督ネヘミヤは、王の地位にあり、エルサレムの城壁を再建するために、神のエコノミーを遂行することで心の純粋な人でした。彼は、神の民の間でリーダーがどうあるべきかの模範でした——参照、I テモテ 3:2-7. I ペテロ 5:1-3 :
1. イスラエルとユダの多くの王とは異なり、ネヘミヤは利己的ではなく、自分の利益を求めず、情欲にふけりませんでした。
 2. ネヘミヤは総司令官として、敵と戦う用意をしていた者たちの間にいて、夜の見張りに就きました。彼はこれらの事柄を人にさせるだけでなく、自らその見張りに就きました——ネヘミヤ 4:9-23。
 3. ネヘミヤと彼の兄弟たちは神を畏れたゆえに、十二年の間、総督のために定められた食物を食べませんでした——ネヘミヤ 5:14-15。
 4. ネヘミヤは都の城壁の工事に専念して、何の報酬も受けませんでした。彼は自分のことを求めず、人に供給し、城壁を建造しました——ネヘミヤ 5:16-18。
- F. ネヘミヤは支配者でしたが、全く野心はありませんでした。この事は下記の事実によって示されています。すなわち、国を再構成することで、神の言葉をもって神の民を再構成するために、ネヘミヤはエズラを必要としたことを認めていたということです——ネヘミヤ 8:1-10. ペリピ 2:3-4。
- G. ネヘミヤは人類歴史上の完全なリーダー、最高のリーダーであり、長老たちがどうあるべきかの最高の模範でした。わたしたち、特に召会で導いている者が、ネヘミヤの模範を考察することは確かに価値があります。それは、わたしたちが神を獲得し、人に神を流し出す模範となって、時代を転換するためです——ネヘミヤ 5:19. 13:14。